

「居心地の良い場所」における人間-環境関係

林田 大作

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科
(〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2)

Person-environment relationship study on cozy places

Daisaku HAYASHIDA

Department of Environmental Design, Faculty of Health Sciences, Kio University
(4-2-2 Umami-naka, Koryo-cho, Kitakatsuragi-gun, Nara 635-0832, Japan)

要旨 環境行動モデルを設定し、「居心地の良い場所」における人間-環境関係を考察することにより、建築の設計計画・インテリアデザインに取り組む上で有用な知見を得ることができる。本稿では、「居心地の良い場所」における人間-環境関係について概説する。

Keywords: 「居心地の良い場所」, 人間-環境関係, 環境行動モデル, 様態表現, 場所構築行動

1. はじめに

生活環境において「居心地の良い場所」があることは、その人の生活に安心感や安定感をもたらす。また、人びとが生活環境の中に、空間を見つけて使いこなす行動、お気に入りの家具・什器・装備・設備などのインテリアエレメントを設える行動、スマートフォン・パソコン・本・飲食物などの私物を持ち込む行動などは、「空間を場所化する環境行動」と考えられる¹⁾。

日本における環境行動研究の端緒は、1982年の人間・環境学会(MERA: Man-Environment Research Association)の設立に見ることができる。それまでEDRA(Environmental Design Research Association, 1968年設立)やIAPS(International Association for People-Environment Studies, 1981年設立)の構成メンバーによって行われてきた「environment-behavior study(環境行動研究)」を応用し、日本の生活環境に対して種々の問題が提起され、解決に向けた研究と実践が行われた^{2) 3) 4)}。

それら課題の中で、今なお続く重要なものとして「居心地の良い場所」がある。本稿では、建築の設計計画・インテリアデザインの究極の目的でもある「居心地の良い場所」における人間-環境関係について概説する。

2. 「居心地の良い場所」とは

建築空間・インテリア空間は「美しく」あらねばな

らない。しかし、「居心地の良い場所」における人間-環境関係を研究する上での「美」は、「人びとの行動と生活環境の調和が生み出す美」と捉えるべきであろう。このことは、写真1と写真2を比較することによって見えてくる。写真1は、リチャード・マイヤー設計の美術館「ゲティ・センター」のエントランスホールである。建築の設計計画・インテリアデザインに取り組む上で、この空間を憧憬の眼差しで鑑賞・体感し、一歩でもこの空間の美しさに近づこうと努力するべきであろう。



写真1 ゲティ・センター
(リチャード・マイヤー設計, 1997年竣工, 2016年筆者撮影)



写真2「居心地の良い場所」
(ヘルシンキ郊外, 2014年筆者撮影)

しかし、この美術館はロサンゼルス市街を見下ろす山の上にあり、麓の駐車場に車を停め、ケーブルカーに乗って行かなくてはならない。ゆえに、人びとがふらりと立ち寄れるような身近な空間ではない。また、写真1には人びとが写っておらず、「人びとの行動」は感じられない。このような美は、「時間が止まったような美」と呼ぶことができる。かつて東洋美術研究家フェノロサは、薬師寺東塔を「凍れる音楽」と形容したが、この言葉は、「時間の芸術である音楽が凍りつき、空間として静止したような美しさ」を表していると言える。このような人びとが写っていない写真は、以前は竣工写真として建築・インテリア雑誌によく掲載されていた。その意味では「できたての美」とも言えよう。

一方、写真2は、ヘルシンキ郊外で筆者が出会った「居心地の良い場所」である。様々な人びとが、朝な夕な、入れ替わり立ち替わり、この木陰にあるベンチと、緑で覆われた地面の上で時を過ごす豊かな「時間の流れ」を感じることができる。このような美は、「人びとの行動と生活環境の調和が生み出す美」と呼ぶことができる。

近年、建築・インテリア雑誌の竣工写真に人びとが映るようになった。このことは、空間に居る人びとを「竣工した建築・インテリア空間の中で何かをする存在」として捉えるだけでは、人びとの行動と生活環境の調和を生み出せないことを示している。鈴木は、「居方」という概念を提案し、環境構成要素としての人びとがある場所に居る場面そのものを記述、分析し、「たたずむ」「思い思い」「居合わせる」などの特徴ある居方の検討を行っている^{5) 6)}。

「居心地の良い場所」とは、ある人がある空間に「居

る」ことが前提であり、その人が「心地良い」と感じるにより成立する。かつての建築の設計計画・インテリアデザインの取り組み方は、「人びとの行動や心理は、建築空間・インテリア空間が決定する」という考え方、すなわち「建築決定論」が支配的であった。これは、産業革命以降の近代建築運動において出現した機能主義的建築の物理的空間のあり方が、人びとの行動や心理に決定的な影響を与え、生活水準の向上が達成された事実とその論拠が置かれている。

しかし、近年、「人びとの行動や心理と建築空間・インテリア空間は、それぞれ独立のものではなく、互いに分離不可能で一体的なものである」という考え方、すなわち「相互浸透論 (Transactionalism)」の研究が進展している⁷⁾。「居心地の良い場所」は、「居ることができる」「心地良くなる」という人びとの行動や心理と建築空間・インテリア空間を、分離不可能で一体的な「場所」という現象として捉える際に、最も適切な概念と言える⁸⁾。従って、「居心地の良い場所」における人間—環境関係を考察することにより、建築の設計計画・インテリアデザインに取り組む上で有用な知見を得ることができる。

3. 「居心地の良い場所」の様態表現

ギブソンは、心理学における視知覚の問題を生態学的に扱い、「環境のアフォーダンスとは、環境が動物に提供する (offers) もの、良いものであれ悪いものであれ、用意したり備えたりする (provide or furnish) ものである」と述べている⁹⁾。

筆者らは、「人びとは、生活環境の中に『この空間では〇〇できそう (〇〇は活動)』『この空間では△△という気持ちになれそう (△△は心理的状态)』などのアフォーダンスを見つけて使いこなしている」という環境行動モデルを設定し、東京圏と大阪圏に在勤・在住するオフィスワーカーを対象とするアンケート (表1) を行った。その結果、合計454箇所の自宅・職場以外の「居心地の良い場所」を得た。アンケートの回答から、「居心地の良い場所」データシート (図1) を作成し、①場所の名前、②場所の自由記述表現、③「居心地が良い理由」の三項目を分析した。分析にあたっては、日本語における文法や語法を参照し、「居心地の良い場所」の様態表現に用いられる語の分類基準 (表2) を策定した。様態表現の主語は自分・同伴者・他者・管理者などのヒトと物的要素であるモノに分類でき、これらは「居心地の良い場所」の環境構成要素と考えられる。一方、様態表現の述語および修飾語はヒトの活動、ヒトの内面的状態、ヒトやモノの性質・

表1 アンケート概要

□フェイスシート 氏名・住所・電話番号・E-mail Address・性別・年齢・職業・勤務先、および現住所に至る居住履歴を記入。

□「居心地の良い場所」の名前および自由記述
自宅・職場以外で「居心地の良い場所」を4箇所まで、簡単な文章やイラストで自由記述。「あなたが何をしているか。」「周りの様子はどのような様子か。」等を記入するよう指示した。

～「居心地の良い場所」について、下記の項目を記入～

□場所の位置 「居心地の良い場所」および自宅、職場、最寄駅、交通機関、等の位置を示す略図。

□理由 「どうしてその場所が居心地が良いのか。」

□きっかけ 「どのようにしてその場所を知ったのか。」

□同伴者 「誰と行くのか。」

□頻度 「どのくらいの頻度で行くのか。」

□滞在時間 「1回の滞在時間はどのくらいなのか。」

□工夫・対処 「もっと居心地良くするための工夫・対処。」

*アンケートには、カラー都市地図(縮尺12万分の1、A3判)を添付した。

「居心地の良い場所」データシート

①「場所の名前」

②「場所の自由記述表現」

③「居心地が良い理由」

④「きっかけ」

⑤「同伴者」

⑥「頻度」

⑦「滞在時間」

⑧「工夫・対処」

「居心地の良い場所」データシート

①「場所の名前」

②「場所の自由記述表現」

③「居心地が良い理由」

④「きっかけ」

⑤「同伴者」

⑥「頻度」

⑦「滞在時間」

⑧「工夫・対処」

図1 「居心地の良い場所」データシート

表2 「居心地の良い場所」の様態表現に用いられる語の分類基準

			述語および修飾語が表す事態								
			動き(動的事態)			状態(静的事態)					
			ヒトの活動			ヒトの内的状態			ヒトやモノの性質・特徴		
			「する」			「なる」			「である」		
			動詞	形容詞	様態の副詞	動詞	形容詞	様態の副詞	動詞	形容詞	様態の副詞
主語	ヒト	自分	継続活動動詞 テイル形複合動詞 など	－	様態の副詞＋ スル・テイル など	状態変化動詞 テイル形複合動詞 感情動詞 など	感情形容詞など	様態の副詞＋ スル・テイル など	状態動詞など	属性形容詞など	－
		同伴者									
		他者									
		管理者									
	モノ	物的要素	－	－	様態の副詞＋ テイルなど						

特徴に分類でき、それぞれ『(○○)する(○○は活動)』『(△△という気持ちに)なる(△△は内面(心理)的状态)』『(××)である(××は性質・特徴)』という表現形式でまとめられ、これらは「居心地の良い場所」の環境構成要素であるヒトとモノの動き(動的事態)と状態(静的事態)と考えられる。

このようにして、「居心地の良い場所」の様態表現を考察し、以下の知見を得た¹⁰⁾。

- 1) オフィスワーカーの自宅・職場以外の「居心地の良い場所」は、「居酒屋・酒場・バー」「飲食店」「専門物販店」などの建築物・施設、「道」「公園」「街」などの都市施設の割合が高く、建築の設計計画・インテリアデザインにより、生活環境の居心地の良さを向上させる意義が確認された。
- 2) しかし、「水辺・川辺・海岸」という自然の割合も高く、建築の設計計画・インテリアデザインに取り組む際に、自然を中心とする非計画的要素を取り入れる重要性が示唆された。
- 3) 「居心地の良い場所」の様態表現に用いられる語の分類基準(表2)の有用性が確認できた。
- 4) 様態表現の接続詞に着目して考察を行ったところ、

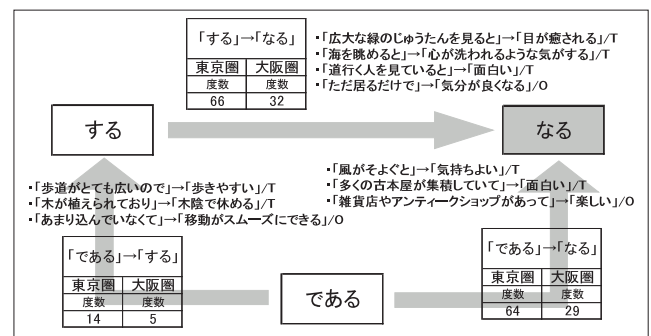


図2 「する」「なる」「である」の接続関係

「なる」は、「する」および「である」の影響から、結果的に現出する上位かつ観念的な様態であり(図2)、さらに上位の「なる」として、『居心地が良いという気持ちに「なる」』という様態が存在する。

4. サードプレイスに「なる」ということ

オフィスワーカーの自宅・職場以外の「居心地の良い場所」は、「サードプレイス」と呼ぶことができる。1996年、銀座にスターバックス日本1号店が出店して以来、同種の店舗が増加し、日本人の生活環境に「サー

ドプレイス」という「居心地の良い場所」が浸透していく。しかし、「ふらりと目の前にある店舗に入る場合」と、「しっかりした足取りで、決めごとのように、ある特定の店舗に入る場合」を区別する必要がある。後者は「行きつけの店舗」である。同種の店舗であればどの店舗でも良いのではなく、「いつも行くあの居心地の良い場所」でなくてはならない。

「サードプレイス」という概念を初めて提示した社会学者オルデンバーグは、「人間には、住む場所＝第一の場所、働く場所＝第二の場所、遊び心にあふれ、家庭のように快適で楽しめる場所＝第三の場所が必要」と述べている¹¹⁾。ここで注意したいことは、『ある空間が「サードプレイス」である』のではなく、『ある空間がある人にとって「サードプレイス」になる』という点である。

オルデンバーグは、「行きつけの場所」として、「カフェ・書店・バー・ヘアサロン・その他のたまり場」などを挙げ、それらは「インフォーマルな集いの場であり、人びとが出会って言葉を交わす場」と述べている¹²⁾。

しかし、このような場所は、建築・インテリアの専門家が計画してつくる空間とは決定的に異なる。ある人が、生活環境の中に『この空間では〇〇できそうだ(〇〇は活動)』『この空間では△△という気持ちになれそうだ(△△は心理的状態)』などのアフーダンスを見つけ、かなりの頻度で行き、使いこなしたときに、その空間が「行きつけの場所」になるのである。

図3および表3は、職場周囲の「行きつけの場所」の変容を示している。この調査研究では、東京都千代田区神田司町（以下、神田）から、東京都港区港南（以下、品川）へ、事務所を移転したO社（建設業）の一部15名の協力を仰ぎ、「職場の移行」という環境移行の際、職場周囲の「サードプレイス」がどのように変容するかを考察し、以下の知見を得た^{13) 14)}。

- 1) 近代的界限性を残す神田から、計画的に再開発された品川に職場が移行した場合、「行きつけの場所」は激減あるいは減少する。
- 2) 8階建て・1フロアあたり約200㎡の小規模オフィスから、31階建て・1フロアあたり約3,000㎡大規模オフィスに職場が移行した場合、「職場で仕事をする」とともに、職場周囲で飲んだり食べたりして、会社の人との交流を楽しむ（表3のパターンB）「職場周囲で自分の時間を持ち、仕事を職場から持ち出す場合もある（表3のパターンD）」という生活像から、「職場は仕事をする場所であり、職場周囲に仕事以外の活動を求めない。仕事が終われ

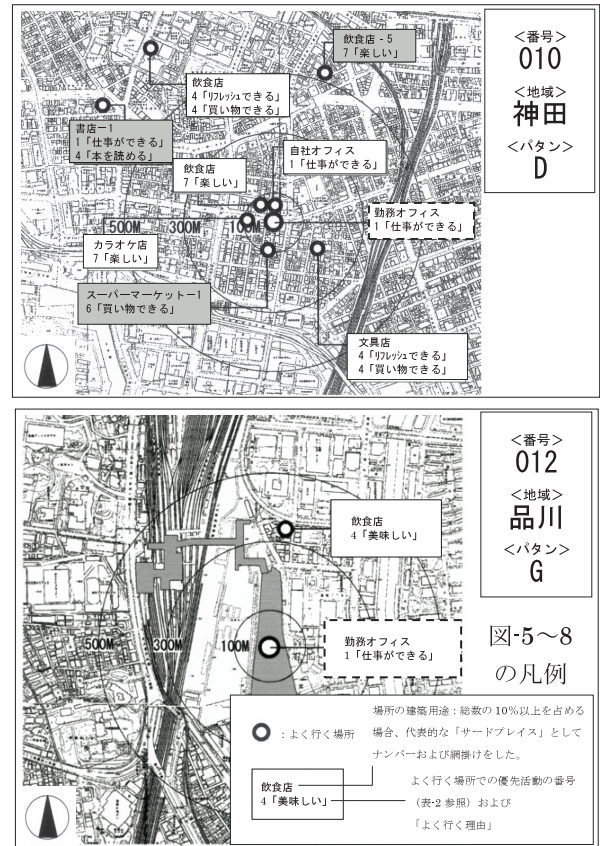


図3 職場周囲の「サードプレイス」の変容

表3 「行きつけの場所」の構築パターンと生活像

パターン	特徴	職場周囲での生活像	神田		品川	
			該当する協力者	人数	該当する協力者	人数
A	「会社業務」のみを勤務オフィスで行う。 「会社以外の人との交流」「自分の時間」は生活上の優先活動であるが、そのためのサードプレイスは職場周囲に構築されない。	職場は仕事をする場所であり、職場周囲に仕事以外の活動を求めない。仕事が終われば、まっすぐ家路に就く。	005	1	005 008 011	3
B	「会社の人との交流」のためのサードプレイスが職場周囲に構築されている。 勤務オフィスの他に、業務等で自社オフィスに「会社業務」のためのセカンドプレイスが構築されている場合がある。 「会社の人との交流」「自分の時間」「家族・恋人との交流」は生活上の優先活動であるが、そのためのサードプレイスは職場周囲に構築されない。 サードプレイスは「飲食店」「遊技場」等で建築用途数はそれほど多くない。	職場で仕事をする」とともに、職場周囲で飲んだり食べたりして、会社の人との交流を楽しむ。	001 006 008 013 015	5	001 006 009 014	4
C	「社外の人との交流」のためのサードプレイスが職場周囲に構築されている。 「会社の人との交流」のためのサードプレイスは「飲食店」「社外オフィス」等で建築用途数はそれほど多くない。	職場では仕事をするが、職場周囲では必要以上に会社の人との交流を図らず、それよりは会社以外の人との交流を図る。	011 014	2	015	1
D	「会社の人との交流」に加え、「自分の時間」のためのサードプレイスが職場周囲に構築されている。 「会社業務」のための場所が勤務オフィス以外に職場周囲に構築されている。 「家族・恋人との交流」のためのサードプレイスが構築されている場合がある。	職場で仕事をする」とともに、職場周囲で会社の人との交流を楽しむ。それに加え、職場周囲で自分の時間を持ち、仕事を職場から「持ち出す」場合もある。	002 004 010 012	4	002 003 004	3
E	「会社の人との交流」「会社以外の人との交流」「自分の時間」に加え、「家族・恋人との交流」のためのサードプレイスが職場周囲に構築されている。 様々な活動のための、多くの多様なサードプレイスが職場周囲に構築されている。 優先活動の種類が多く、そのためのサードプレイスがほとんど職場周囲に構築されている。	職場で仕事をする」とともに、職場周囲で会社の人との交流を楽しむ。また、職場周囲で自分の時間を持ち、仕事を職場から「持ち出す」場合もある。さらに、職場周囲で家族・恋人等の大切な人との時間を持ち、昼食も楽しむ。	003 009	2	-	0
F	場所数は少ないが、場所の種類は比較的多く、一つのサードプレイスで複数の優先活動を行う。 優先活動の種類が多く、そのためのサードプレイスが全て職場周囲に構築されている。 勤務オフィスにおいて「会社の人との交流」「自分の時間」「家族・恋人との交流」のための場所が構築され、セミサードプレイスが構築されている。	職場で仕事をする」とともに、会社の人との交流や自分の時間、家族・恋人等の大切な人との時間を持ち、仕事以外の活動を「持ち込む」場合もある。職場周囲においても数は少ないが、一つの場所で会社の人との交流や自分の時間、家族・恋人等の大切な人との時間を持つ。	007	1	007 013	2
G	「自分の時間」のためのサードプレイスが職場周囲に構築されている。	職場では仕事をするが、職場周囲では必要以上に会社との交流を図らず、それよりは自分の時間を大切にします。	-	0	010 012	2

※ 「および」は、図-11～14にマップデータを例示。

※ 網掛け部分は、両地域において多く見られたことを示す。

ば、まっすぐ家路に就く（表3のパタンA）」「職場周囲では必要以上に会社との交流を図らず、それよりは自分の時間を大切にする（表3のパタンG）」という生活像へと変容する。

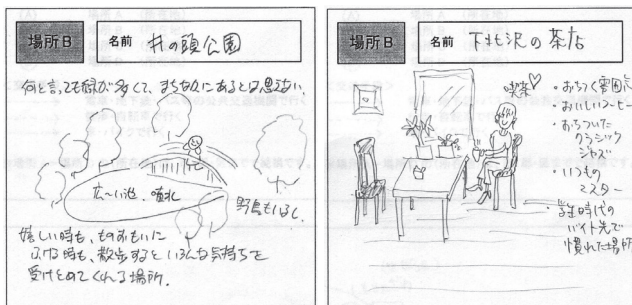


図4 オフィスワーカーの「サードプレイス」

図4は、オフィスワーカーの「サードプレイス」になった自宅・職場以外の「居心地の良い場所」である。生活環境の中の公園やカフェという「居心地の良い場所」の様態表現として、「散歩する」という自分の「する」、「落ち着く」という自分の「なる」、「みんな気まま」という他者の「なる」、「いつものマスター」という管理者（あるじ）の「である」、「緑が多い」という物的要素の「である」のほか、「学生時代のバイト先で慣れた場所」「いろんな気持ちを受け止めてくれる場所」などが得られ、人びとの行動や心理と建築空間・インテリア空間の一体性と調和を読み取ることができる¹⁵⁾。

筆者らが設定する環境行動モデルにおける「人びと」は、生活環境の中に『この空間では〇〇できそうだ（〇〇は活動）』『この空間では△△という気持ちになれそうだ（△△は心理的状态）』などのアフォーダンスを見つけて使いこなしている。つまり、人びとは「場所構築行動（Place-constructing Behavior）¹⁶⁾」を集積し、生活を形づくっているものであり、『ある空間がある人にとって「サードプレイス」に「なる』』ということは、人びとが生活環境において「空間を場所化」していることの証左でもある。

5. プレイスメイキングと「居心地の良い場所」

三浦は、「日本の郊外では、今まで住宅づくりばかりをしてきたが、今後はそこに、自分たちの地域に必要なもの、働く場所、遊ぶ場所、子育ての場所、お店、あるいは自然を、企業任せ、行政任せではなくて、市民自身が作っていく必要がある。」と述べている。また、2014年に開催されたプレイスメイキング・シンポジウム（国土交通省）の中で、伊藤は「プレイスメイキング」の概念を、「人が自然に集まり、交流が進むような公共空間を作ることを指すデザイン概念であり、日

本では『居場所づくり』とも訳される。」と説明している¹⁷⁾。

久は、禅宗の始祖である達磨大師の「結果自然成（けっかじねんになる）」という言葉引用しながら、これからのまちづくりは、「なる」まちづくりであるべきだと述べている。さらに、「個々人が自分の周囲にある環境の特性や自分の周りにいる他者との関係性を意識し、自らの行為のあり方を考えることが必要である。そして、意見交換を通じて、お互いの違いを認め合いながら、共有できる部分をみいだしていく努力が求められる。つまり「なる」まちづくりを実現するためには、「自律的な個人」の存在と彼らをむすびつける意見交換の「場」や機会が必要だと言える。」と述べている¹⁸⁾。

筆者は、『「自律的な個人」と彼らをむすびつける意見交換の「場」や機会』を「人びとをつなぐプラットフォーム」と位置付け、プレイスメイキングに関する実践的研究を行った。

まず、奈良県桜井市桜井駅南側エリアの歴史的まち資源を抽出・調査研究し、「さくらいまちあるきマップ」「旧伊勢街道のまちなみガイド」を制作した。次に、歴史的まち資源の中から、このエリアの課題解決につながる可能性を持つ「桜井本町たまり場」「旧永船邸」「旧井田青果店」「旧京都相互銀行」を選定し、所有者へのインタビュー、地域住民へのヒアリングを実施しながら、プレイスメイキングプロジェクトに取り組み、以下の知見を得た¹⁹⁾ ²⁰⁾。

- 1) 人びとをつなぐプラットフォームをつくるためには、見過ごされがちな歴史的まち資源の特性や伝統性に目を向け、理解したうえで、プレイスメイキングの可能性をみつけ、丁寧な検討を重ねていくことが重要である。
- 2) 「つながりたい」「地域コミュニティを取り戻したい」と考えている人びとのためのプラットフォームをつくり、地域の生活環境が居心地良く「なる」ことが、プレイスメイキングの目標である。

6. 「無為」と「居心地の良い場所」

近年、「あえて何もしない」「あえて何も考えない」という積極的な「無為」の価値が見直されている。

レナーおよびデスーザは、ショーターの言葉「生きていくためには確かにいろんなことをするけれど、本当に大切な仕事のために、何もしないスペースをつくらなくちゃいけない」を引用し、あえて「何もしない」時間・空間をつくることの意義を示している。また、老子『道德経』第六十三章『為無為、事無事（為さず

に行い、力まずに働く)』を参照しながら、「無為は動作をしないことを意味しているわけではない。じたばたしない、過剰に力まない、自然な動作のことを指す。周囲の環境にチューニングしながら、時間をかけて、意図というよりエネルギーの流れに従っていく。」と述べている。

彼らが述べる「エフォートレスな行動」とは、「努力を要しない」「無理のない」「肩肘張らない」といった意味であり、これは日本的な「一生懸命がんばる」とは対極の意味である。また、ファッション用語としての「エフォートレス」には、「抜け感」「こなれ感」「軽々とやってのける」「気取らないスタイル」といった意味がある²¹⁾。

筆者のこれまでのオフィスワーカーの「居心地の良い場所」に関する研究では、「無為」に近い様態表現として、「ボーっとする」、すなわち『ボーっとした、何もしない、何も考えない状態に「なる』』という様態表現はある程度得られていた。

このような経緯をふまえ、筆者は、2021年11月、畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科1回生59名に

表4 「居心地の良い場所」に関するレポート課題

自宅または自宅周辺の「居心地の良い場所」を教えてください
【写真】「居心地の良い場所」の写真
【理由】その空間がなぜ居心地が良いのか
【設え】家具・什器・装備・設備などの設え(インテリアエレメント)

レポートを課し、自宅または自宅周辺の「居心地の良い場所」を収集した(表4)。その結果、自宅(42)、河川敷(5)、カフェ(4)、公園(4)、海岸(1)、道(1)、駐車場(1)、電車の中(1)が「居心地の良い場所」になっていることがわかった(括弧内は件数)。

次に、理由の様態表現について考察したところ、「くつろぐ／リラックスする(24)」「落ち着く(13)」が半数以上を占め、「ぼーっとする(6)」「自分の世界(6)」が続く、「ただそこにいるだけ(1)」「安心する(1)」「嫌なことを忘れる(1)」も見られた(括弧内は件数)(図5)。

図2に示した通り、心理である「なる」は、行為である「する」および状態である「である」の影響から、結果的に現出する上位かつ観念的な様態である。今回の調査研究では、心理である「なる」に関する様態表現が多く見られたが、行為である「する」に関する様態表現については、「友達と話す(2)」「大好きなものに囲まれる(2)」「犬と遊ぶ(2)」「風景を見る(2)」「バーベキューをする(2)」「景色を見る(2)」「家族が集まる(2)」などが見られたものの、全体に占める比率は14%にとどまった(図5)。このことは、コロナ禍による活動の減少と在宅時間の増加、情報とストレスが支配的な生活環境からの逃避の欲求から、大学生が「何もしない」「何も考えない」「ただ居られる」場所、すなわち「無為」の場所に対して居心地の良さを感じて

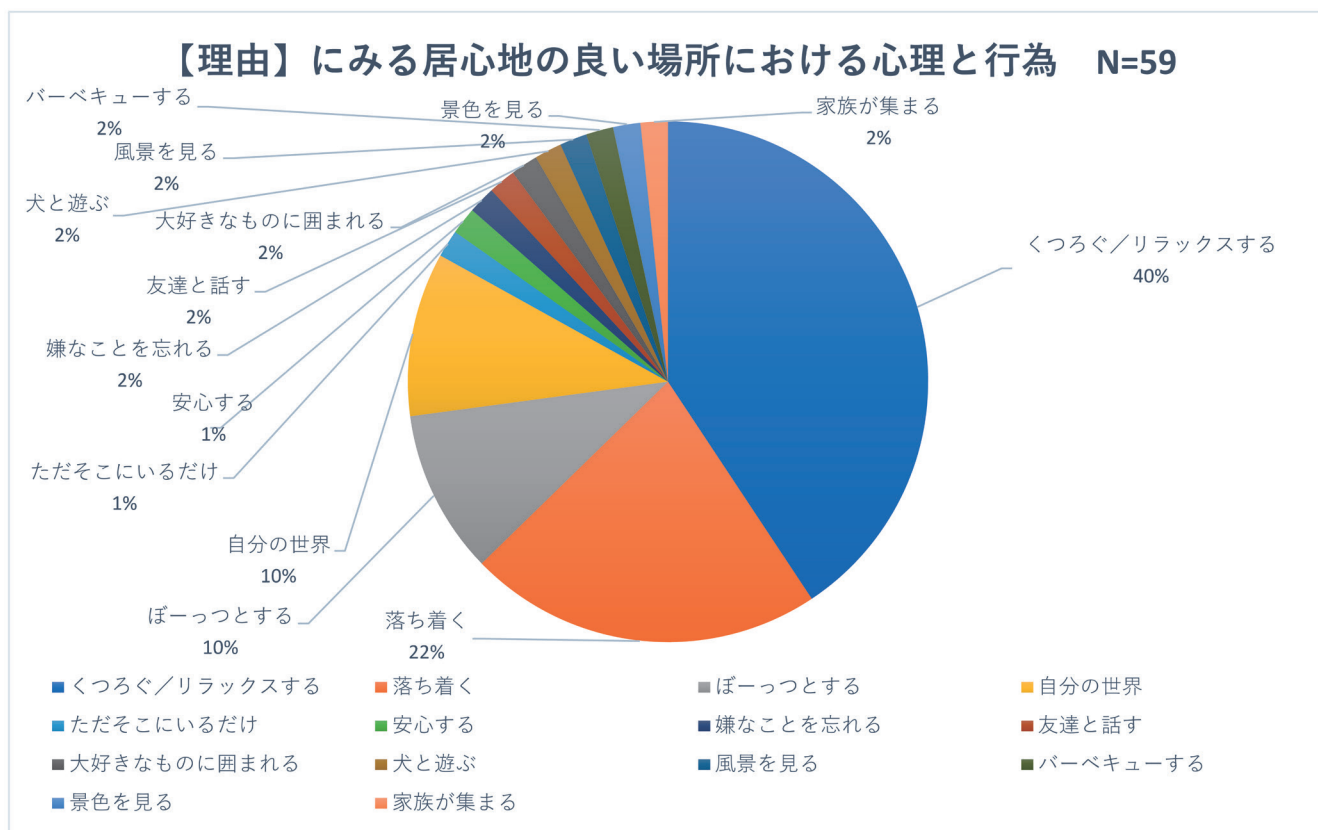


図5 「居心地の良い場所」における心理と行為

いることを示している。

さらに、「無為」の居心地の良さを典型的に示す12例をピックアップし、詳細な分析を行った結果、「特に何もしない」「特に何も考えていない」という「行為や思考が抜け落ちた状態」によって、人間（自分）と（周囲の）環境の一体化が図られていることも示唆された²²⁾。

7. おわりに

本稿では、「居心地の良い場所」における人間－環境関係について概説した。今後の課題として、公共的な「居心地の良い場所」における社会的包摂性、私的・共的な「居心地の良い場所」におけるしつらえ（できるだけその場所を居心地良くする工夫・手段・感覚）に関する研究の進展が期待される²³⁾。

8. 参考文献

- 1) 林田大作：空間を『場所化』する行動から建築の計画・設計を考える 子供と母親の生活環境に関する考察を通して、ダチケンゼミ 足立孝先生生誕百周年記念論文集 人間・環境系からみる建築計画研究, pp167-190, デザインエッグ株式会社, 2019年12月
- 2) Moore G T, Tuttle D P, Howell S C, 小林正美監訳, 三浦研訳：環境デザイン学入門 その導入過程と展望, 鹿島出版会, 1997年
- 3) 日本建築学会編：人間－環境系のデザイン, 彰国社, 1997年
- 4) 高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル 空間デザインのための道具箱, 彰国社, 2003年
- 5) 鈴木毅：人の居方からの環境デザイン, 建築技術, 1993.7～1995.12
- 6) 鈴木毅：人の居方からの環境デザインの試み, JKKハウジング大学校講義録 I, 小学館スクウェア, 2000
- 7) 舟橋國男：建築決定論と相互浸透論, すまいろん季刊通巻第63号, pp.34-38, 財団法人住宅総合研究財団, 2002年
- 8) 林田大作：人びとがつくる『場所』という現象をとらえる, 日本建築協会 建築と社会 Vol.99, pp29-32, 2018年6月
- 9) Gibson JJ, 古崎敬・古崎愛子・辻敬一郎・村瀬旻訳：生態学的視覚論, p137, サイエンス社, 1985年
- 10) 林田大作ほか：『場所』の様態表現に関する基礎的分析―都市生活者の「居心地の良い場所」に見る人間－環境関係の研究―, 日本建築学会計画系論文集 第579号, pp45-52, 2004年5月
- 11) Oldenburg R: The Great Good Place, Marlowe & Company, New York, 1989
- 12) レイ・オールデンバーグ著, 忠平美幸訳：サードプレイス コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」, みすず書房, 2013年
- 13) 林田大作ほか：職場周囲に構築されるサードプレイスに関する研究―神田地域・品川地域の比較分析―, 日本都市計画学会学術研究論文集No. 38-3, pp433-438, 2003年11月
- 14) 林田大作ほか：環境移行に伴う職場周囲の場所構築の変容に関する研究―神田地域から品川地域への職場移行をケーススタディとして―, 日本建築学会計画系論文集 第576号, pp67-74, 2004年2月
- 15) 林田大作：オフィスワーカーにとっての「サードプレイス」, 建築と社会, vol.92, No. 1069, pp.17-18, 社団法人日本建築協会, 2011年4月
- 16) Hayashida D: Basho-kouchiku "Place Constructing Behaviors", Journal of Asian Urbanism, No.6, pp.28-29, International Society of Habitat Engineering and Design, March, 2012
- 17) 三浦展：人間の居る場所, 而立書房, 2016年
- 18) 日本都市計画学会関西支部編：「都市・まちづくり学入門」, p18, 学芸出版社, 2011年10月
- 19) Hayashida D: Practical Study about Placemaking by Revitalization and Utilization of Vacant Houses Reflecting Local Architectural Culture, EDRA (Environmental Design Research Association) 50th, May, 2019
- 20) 林田大作：人びとをつなぐプラットフォームとプレイスメイキング, 日本建築学会編 まちの居場所 ささえる／まもる／そだてる／つなぐ, pp94-103, 鹿島出版会, 2019年
- 21) ダイアナ・レナー, ステイーブン・デスーザ著, 上野由美子訳：「無為」の技法, 日本実業出版社, 2020年
- 22) 林田大作：大学生の居心地の良い場所における人間－環境関係の分析～「無為」を中心として～, 人間環境学会誌第51号, p19, 2023年9月
- 23) 林田大作：居心地の良い場所を認識し、記述し、つくり出す, ワークブック 環境行動学入門 建築・都市の見方が変わる51の方法, pp100-101, 学芸出版社, 2024年3月